アテナかわらばん
平成26年8月1日 第71号／発行 清花アテナ男女共同参画推進室

パパ同士でつながれば 子育てがもっと楽しくなる！

―市民団体「ファザーズ・みやざき」が設立、活動開始

平成26年5月24日付の宮崎日日新聞に、父親の育児参加の機運を高めようと、県内有志が市民団体「ファザーズ・みやざき」を立ち上げたという記事が掲載されています。

この団体は、父親を対象としたイベントや企業向けの講演会などを通じて、男性が子育てすることへの理解を深めることを目的としており、第1回目の会合には30～50代の会社員や公務員、児童虐待防止の活動をしているNPO法人関係者ら11人が出席したそうです。参加者からは「子どもの叱り方が分からない」「子どもの発達について学ぶ場がほしい」といった悩みが挙がったほか、「男性の育児参加は職場の理解を得られにくい」といった問題点も指摘されました。

団体は今後、パパたちが『父親を楽しもう』という意識を持てるよう、キャンプなど父親同士が交流しながら情報を交換できる場を設置に加え、地域や企業などに対して理解を求める活動を展開していく方針なのだとか。団体の情報はフェイスブックでも確認できるそうですので、関心のある方はご覧になってみてはいかがでしょう？（URLはコチラ→ https://www.facebook.com/fathersmiyazaki）

7月はさまざまな国の方が来室されました！

7月、清武キャンパスの推進室は国際色豊かなゲストをたくさんお迎えしました。2日には、本学看護学科が受け入れているJICA地域別研修の一環で、母子保健に携わるパキスタンなど5カ国の医療関係者10名が来室、伊達室長から本学が取り組んでいる女性研究者支援や男女共同参画についての説明を受けました。その後、伊達室長も交え、それぞれの国の女性の立場やキャリア形成について活発なディスカッションが繰り広げられました。9日には、タイのソンクラ大学の女性教員1名が来室され、Athenaリサーチアシスタント制度や宮大病院キャリア支援枠制度などについて高い関心を寄せていました。

（画像 左：JICA地域別研修の様子、右：ソンクラ大学教員来室時の様子）

■Essay 「家族の一員へ」

学生支援部　教育支援課　　次長　林　健一郎 さん

私には二人の息子がいますが、二人とも県外で生活しています。子どもへの世話（子育て）は一段落し、犬達（アメリカン・コッカー・スパニエルの「ラブ（12才）」とトイプードルの「茶々（3才）」）と自由な時間を過ごしています。

特にラブは、長年私たちと暮らしてきました。辛い時や悲しい時は、寄り添ってくれるだけで優しさが伝わり、気持ちが落ち着き救われました。また、楽しい時はあなたの笑顔？で幸せな気持ちが何倍にもなりました。家族全員があなたの優しさに救われました。

今は歩く速度が遅くなり、少し耳も遠くなりましたか？近い将来の自分と重ねて見てしまいます。お互い健康に注意しようね。これからも仕事等で遊べない時間があるけど、そういう時は、休みの時にいっぱい遊ぼうね。ときには生意気でわがままだけど、あなたと重ねた日々の数と同じだけ、沢山の思い出と優しさをもらいました。本当にありがとう。

あなた達はかけがえのない家族の一員です。これからも仲良く暮らそうね。

男女共同参画、この人に聞く

このコーナーでは、インタビューを通じて、本学における男女共同参画の現状と展望を探ります。今回は国際連携センターの伊丹利明センター長にご登場いただきました。
（聞き手：伊達紫 清花アテナ男女共同参画推進室長）

ー昨年10月に国際連携センター長に就任されました。センターの概要について教えていただけますか？

以前は国際協力に関する取り組みは研究協力課、留学生に関する取り組みは学生支援課と事務部門が分かれていたのですが、国際連携センターはそれらを統括することを目的に平成18年4月に開設されました。主な業務は交流協定校を中心とした国際的な学術・教育の連携や開発途上国に対する国際協力などです。加えて、本学在籍の外国人研究者や留学生への支援も重要な業務で、現在ビザを持っている留学生は142名（男性：87名、女性：55名）で数年前の約1・5倍と増加傾向にあります。

ーセンター長として印象的だったことはどのようなことでしょうか？

「清武ドミトリー」と「イスラーム文化研究交流棟」がオープンしたことが印象的ですね。前任者である丸山眞杉医学部長のご尽力によるものですが、特に「イスラーム文化研究交流棟」はイスラーム文化を皆で理解していきましょうというスタンスで設置された点が大きな進歩だと感じます。もう一つは、学長によるトップセールスの重要性です。4月末にはミャンマーに行ってきたのですが、学長自らが足を運んでおられたおかげで、滞在中に交流協定の調印にまでこぎつけました。物理的な距離が大きい国際連携の分野で、スピーディに事が進んでいくのは非常にありがたいですし、ガバナンスが求められる昨今、大学にとっても重要なことだと思います。

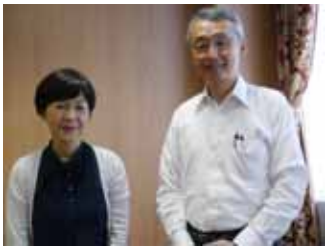
ーセンター長として様々な国や地域を訪問する機会があると思いますが、海外での女性の活躍の状況をどうご覧になりますか？

東南アジア諸国では女性がリーダーシップを発揮しているというイメージが強いですね。むしろ男性と一緒に仕事をする場面のほうが少ないような気もします。個人的には、男性、女性という性別の違いよりも、一人一人が持つ能力の違いが重要だと思っています。だからこそ、身近な存在である家庭での教育はとても重要です。例えば、お父さんがキッチンに立つだけでもいい。そういう場面を見て、子どもは多様性やその中にある平等性を学んでいくのではないでしょうか。周りにいる大人の人間的な違いを認めながら、それぞれが平等だと思える感覚こそ、国籍や国境を越えた外国人との平等な付き合いに結びついていくのだと思います。人を人として見てその多様性を認める…男女共同参画も国際交流もベースは同じだと思います。

ー最後に、センター長としての目標があればお聞かせください。

学内では、現在は留学生の3分の2が大学院生という状況なので、アジアを中心に学部所属の留学生を増やしていきたいですね。そして、日本人の学生も海外からの学生も同じように勉強できるようなキャンパスを実現したいと思っています。逆に、日本の学生が気軽に留学できるようなシステムも構築したいですね。そのためには、学生自身や教職員のマインドを変えていかなくてはいけません。そうする中で、宮崎大学が県全体の国際化においてリーダーシップを発揮していければと考えています。

（平成26年7月3日、事務局棟応接室にて）



◇あてなのらくがき◇このコーナーでは推進室で起こった出来事や話題を少しだけご紹介します

アテナがんばる封筒、もうあなたの元にも回ってきましたか？

宮崎大学の教職員が仕事に使う必須ツールの一つ、「がんばる封筒」。6月から清花アテナ男女共同参画推進室デザインのがんばる封筒が学内を回っていることをご存知ですか？教職員の皆さんに、アテナを知ってもらおうとスタッフがデザインしました!! ちょっと気にかけて「アテナデザインがんばる封筒」を受け取ってくださると嬉しいです。

宮大ハッピースローガン

隣の人の気持ち、考えてみませんか？「ありがとう」の気持ち、言葉にしてみませんか？

忙しい毎日でも、ほんの少しだけ相手を思いやる気持ちを持つだけで、ぐんと快適になります

清花アテナ男女共同参画推進室　http://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/　e-mail : info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp
木花キャンパス（内線 7508）：教育文化学部実験研究棟３階　清武キャンパス（内線 2327）：医学部旧管理棟３階